

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	まめのき		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 1日		R7年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	R7年 12月 1日		R7年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育を行うことで、子供たちの就学前の段階での凸凹がわかり、集団行動をする時にもその凸凹に合わせた支援が出来ると思います。	療育時間を1時間未満にして、多数のプログラムを組み合わせ、子供たちの集中が途切れることがないように療育を行っています。	より集中力を高めることで、自分自身で成長できるようにしていきたいです。
2	療育後に必ず保護者さんとの面談をすることにより、その日の成果をすぐに説明して、子供たちの成長と家庭での支援ポイントを理解してもらっています。	毎回、保護者さんと面談することで家庭での問題点なども浮き彫りになり、次回の療育に生かされます。	子どもたちの成長をその場で保護者さんに褒めてもらい、親子で成長を実感してもらえるように療育をおこなっていきます。
3	子どもたちや保護者さんに安心感をもってもらい、楽しく成長できるように通ってもらっています。	子どもたちの行動を多数の大人の目で確認してケガのないようにしています。	ケガを未然に防げるように机の角やじゅうたんのめくれなどの細かい部分に注意して、子供たちがノビノビと自信をつけながら療育を受けてもらえるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士のつながりがなかなかできず、いろいろと考えて保護者さん同士のつながりを増やすことができればと思います	利用している児童の保護者さん全員の休みがあるかどうか(特に平日など)	保護者さんの参加意識を高めて保護者同士のつながりを優先的に考えてもらえれば可能になると考えます。
2	個別支援なので、担当者が変わると崩れる子どもが出てくる時があります。	職員の経験値などで療育スキルの差を縮めていく事が第一だと思います。	職員の療育スキルを研修や実践などであげて、ミーティングなどで確認してレベル差がないようにしていきます。
3	放デイに比べると保護者さんへの施設案内などの情報共有が少ないと思います。	療育後に個々の療育内容の説明以外の情報を発信出来ていないと思います。	放デイと同じように活動内容をお便りにして配布したいと思っています。